

三重大学総合情報処理センター

総合情報処理センター長 古橋武

1. センター概要

三重大学では、昭和46年に計算センターが設置され、昭和62年に学内共同利用の特別施設として情報処理センターが設置されました。以来、情報処理センターは、情報に関する研究・教育の支援、学術情報の収集・提供などのサービス基盤としてその役割を果たしてきました。

情報環境に対するニーズが大きく変わっていく中で、三重大学全学においては、総合的かつ長期的な展望に立った情報基盤の整備が最も重要、かつ緊急の課題であるとして、平成13年度に、三重大学改革の基本計画の一つとして総合情報機構構想がまとめられました。この構想の骨子は以下の通りです。

(1) 高度研究開発支援

大規模高速計算機の導入を行うとともに、応用プログラムの充実を図り、研究支援環境の拡充、整備を行う。また、研究者の情報処理技術の向上を図るため、高度最新情報処理技術を導入し、教育、技術支援を行うとともに、情報に係わる先端技術研究促進部門を置き、産学研究連系の促進を図る。

(2) 全学情報教育の充実

教育用端末の拡充整備を行い、分散教室の一元管理により、効率的・能率的な管理を行うとともに利用者の利便性を高める。また、教育内容の充実を図るために、センターが最新技術情報の収集を行い、学内へのデリバリー機能を持つとともに、それらの研究機能を持つことにより、基礎から先端に至る技術を盛り込んだカリキュラム、シラバスの作成に対する指導的役割を担う。また、大学院生、教職員、事務官等で、さらに高度な学習を望む者に対しては上級者向け講習会を行い、研究の高度化、事務情報化に貢献する人材の育成を行う。

(3) ネットワーク管理運営・セキュリティ管理の強化

ネットワーク利用に関する技術的指導・支援の要請、各種問い合わせ、トラブル処理などネットワーク運営管理に関する要員を増強し、即座に対応できる体制の整備を行う。また、この要員配置により通信システム、ネットワークシステムの高度化、拡充に関する企画、構成員を強化する。

セキュリティ管理に対しても専任の要員を確保し、現在各部局の世話人に依存している機能のうち、共通的機能をできるだけセンターに集中して、各部局の機能を最小限に縮小することにより、世話人の負荷を軽減するとともに、運用管理およびセキュリティ管理の向上をはかる。

(4) 遠隔授業・SCS・電子教室等の推進支援

現在各部局で進められている遠隔授業および、SCSによる授業、インターネットを活用した授業など、通信回線を用いて行われる先進的な教育方式に対し、総合情報処理センターは、教室の確保、器材の整備、維持、管理および技術的指導などの支援を行うとともに、積極的な推進・企画を行う。

(5) 関係機関ネットワーク連携支援

情報立県を目指す三重県は、技術支援センターとして三重大学に多大の期待を寄せている。総合情報処理センターでは、入出力口の一元化によりセキュリティを確保し、組織体制の拡充と、設備の充実、地域に対する情報技術センターとしての技術基盤と、企画・指導力を確保する。各種委員会、研究会、共同研究など、地域情報化社会の実現に向けて自治体との連携強化を図る。

また、自治体職員、関連研究、教育施設職員、および地域産業社会人に対する講習会、公開講座の実施などを通じて、人材の育成に貢献するとともに、地域共同研究センター等と協力して積極的に技術指導、共同研究などを推進し、地域産業の育成に貢献する。

(6) 図書館との連携による学術情報センター機能強化

総合情報処理センターと図書館の係により、情報処理技術の専門知識と、機器管理・運用経験を生かした対応を行うことにより電子図書館の早期実現を図る。

(7) 事務の情報化推進支援

入試業務、授業時間割、履修・成績管理などの教務事務、会計事務、人事事務をはじめ、事務部門の業務の情報化は平成13年4月に総務部情報推進室が設置され更なる効率化、有機的結合、情報の共有による効率的運用等の基盤ができた。総合情報処理センターの設置に伴う情報処理システム環境およびネットワーク環境の整備を進め、効率的な事務情報化システムの構築を支援する。

総合情報処理センターは以上の構想を受けて発足しました。当センターには総合情報処理センター運営委員会が設けられ、その下に研究開発専門委員会、関係機関ネットワーク連携専門委員会、情報教育専門委員会、広報専門委員会が設けられました。また、情報ネットワークの企画・運用等の業務を遂行し、セキュリティ確保の業務を行う全学組織として情報ネットワーク運営委員会が設けられています。

以上の組織と、センター長以下専任の助教授1名、助手2名、技官3名の体制で、上記の構想実現のために主として技術支援体制を整えていきます。

2. 組織

総合情報処理センターの機能を実現するために、つぎの委員会を設置し、それぞれの機能に対する企画、調整を行う。

(1) 総合情報処理センター運営委員会

総合情報処理センター長を委員長とし、関連部局（図書館、関連する共同利用施設等を含む）から選出された委員により構成する。

学内共同教育研究施設管理委員会のもとで、関連する事項の具現化、詳細化等に当たり、運営委員会内に専門委員会を置く。

(2) 研究開発専門委員会

計算機システムの能力高度化等研究支援環境の整備、保守、維持、管理、および高度情報処理技術の教育、技術支援を行うと共に、関連部局研究室との共同による情報処理システムアーキテクチャ、生命情報工学、人文社会情報学等の先端技術支援を行う。また、情報技術に関する大学のシーズと産・官のニーズの橋渡しをし、共同研究の企画・推進支援を行う。

(3) 関係機関ネットワーク連携専門委員会

三重連合大学構想に代表される地方自治体・県内教育機関・研究機関との連携において地域情報化推進に関する技術支援を行う。また、遠隔授業・SCSによる授業、インターネットを活用した授業等に対して技術的支援を行う。

(4) 情報教育専門委員会

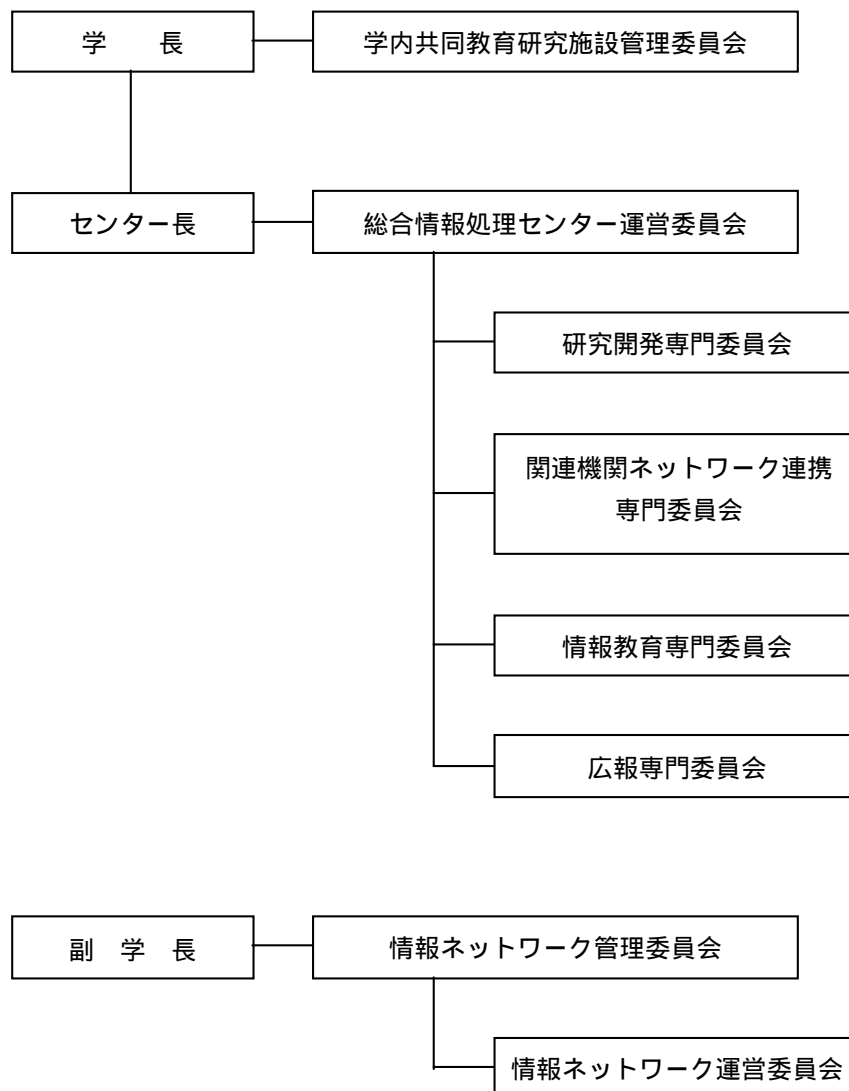
全学生情報リテラシー教育、マルチメディア工房、学内教職員・事務官・大学院生上級教育、地域社会人情報教育等に関する教育環境の整備、拡充、保守、維持、管理および電子図書館の技術支援等を行う。

(5) 広報専門委員会

要覧及びセンターニュース等の企画及び編集、利用者の計算機利用にかかわる知識及び技術の向上を図るために必要な資料の収集、利用者の要望事項の取りまとめを行う。

(6) 情報ネットワーク運営委員会

学内外、地域との情報ネットワークに関する、企画、保守、管理、運用に関する業務を遂行し、セキュリティに関する管理、運営、技術導入、情報収集等の業務を行う。また、事務部門業務の情報化方式設計、運用方式設計、事務情報ネットワーク整備、学術情報ネットワークとの有機的結合方式設計等について、企画・推進支援を行う。



3. 沿革

昭和 46 年 12 月	計算機センター設置
昭和 47 年 4 月	FACOM 270/20 システム導入
昭和 54 年 4 月	FACOM 230/38S システム導入 名古屋大学と接続
昭和 62 年 8 月	情報処理センター設置 FACOM M760/6 システム導入 学術情報ネットワーク (N1) に接続
平成 3 年 12 月	FACOM M770/8 システム導入
平成 5 年 6 月	学術情報ネットワーク (SINET) に接続
平成 6 年 3 月	FDDI ネットワークを整備

- 平成 8 年 3 月 ATM ネットワークを整備
- 平成 11 年 12 月 高速演算サーバ導入
- 平成 13 年 7 月 ギガビットネットワークを整備。
- 平成 14 年 1 月 新高速演算サーバ導入
- 平成 15 年 4 月 総合情報処理センター設置

4. センター主要計算機

